
Memory

妃那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Memory

【Nコード】

N1911D

【作者名】

妃那

【あらすじ】

記憶を無くしたさくら・・・思い出してもらいたい友達や両親・・・そして恋人。さくらが忘れていた大事なことは？？

第1話・・・1（前書き）

初めて書くので皆さんがどう思うかはわかりませんが最後まで読んで頂ければ嬉しいです！！！！感想 評価励みになるのでお願いします

第1話 . . . 1

ねえ . . . あなたは誰？

. . . 泣いて . . . いるの？

どうしてだろう . . . 胸が苦しいよ . . .

『さくらっ！！！！！！』

パンツとドアが開いた . . . 私を『さくら』と呼んだ人は物凄い汗をかいていた。走ってきたんだろう息が乱れてる . . . この人はきっと私の大切な人 . . . でも、私は . . . わからない . . .

「あなたは、誰ですか？」

『えっ？さく . . . ら？』私の問いに冗談だろって顔をする彼に私は一言「ごめんなさい」と謝ることしかできなかった . . .

その後、『さくら』を知る人がいっぱいきた . . .

その人達も彼のように呆然としていたただ私は「ごめんなさい」の言葉を呪文のように言い続けた . . .

どうして?どうしてだよ・・・。

あの日さくらは俺の事を『誰ですか?』って言った。頭の中が真っ白になったきがした・・・。何を言ってもさくらが以前のように俺の名前をくれる訳ではなくただ『ごめんなさい』と謝り続けていた。

俺は『さくら』のことを早く思い出して欲しかった。早く『さくら』に会って抱きしめたい・・・キスをしたい・・・いつものように笑ってほしい、ただ『さくら』の事ばかり考えていて彼女の気持ちなんて全然を考えていなかった。

それはあの日から1ヶ月位たつ頃、まだ記憶は戻っていないが亜実や両親とも仲良くやっていてきつとその内に思い出すだろうと、いや思い出してほしいと思っていた時だった・・・。

『やくらあ〜?..?』

部屋にもいないので探してる時だった・・・。

「ど・・・つ・・・」

何処だろう？さくらの声がする・・・泣いてる・・・???
その小さな声はベランダから聞こえてくる・・・

「どつして？」さくら『のことばかり・・・私もさくらなのに・・・
わかんないよ・・・』

『でもきつと・・・さくらのことを嫌いだからじゃないよ？さくらの事を大好きだから心配するし思い出してほしいんじゃないかな・・・』

??????

・・・誰だろうさくらは誰かと話していた。

『僕はさくらが大好きだよ!!!だから笑って？無理して思い出さないでゆっくりでいいじゃない？』

俺達とは違う事を言うそいつに

「・・・ありがとう空・・・」

嬉しそうに話すさくら

『さあて、そろそろ僕帰るね抜け出してきちゃったから園長先生に怒られちゃう』

「そっかぁ気をつけてね!!!」

空という子供には俺達とは違う素直なさくら俺達にはいつも気をつけているのに・・・誰なんだろう・・・

何も思い出せない自分に腹がたっていたみんなに会えば

『何か思い出した？』

嫌になる・・・亜実や翼くん、両親が仕事や大学に行っているときが私の時間だった。

ただ何もしないで毎日が過ぎていてつまらないか思ってた・・・。

パンツ!!!!!!

思いつきドアがあいて誰かが入ってきた。誰だろう???

私よりもはるかに小さいで男の子がドアにへばりついて外の様子を見ている。

「どっしたの？」

私はその子に声をかけた。

『・・・えっ!!!!!!ここ患者さんいたの?!この間来たときは誰もいなかったのに・・・』

どうしよあと小さい声が聞こえた。

「・・・もしかしてかくれんぼ？」

私が聞くと

『うつっ！！！！！……この間ここにいたら見つからなかったから
今日もここに来たんだごめんなさい！！！！』

ペコッと頭を下げる男の子

「い、いいよ謝らなくても大丈夫　せつかくだからここに隠れてれ
ば??？」

と私が言うと満面の笑みで

『ありがとう！！！！』

と言った。

その笑顔がとても可愛くてその子がかくれんぼをしにここにきてく
れるのが楽しみになった。

それが空。空はほんとに名前のようにくると表情を変える。私
がなんでここにいるか話した時は泣いてしまった。正直小学生位の
子に真剣に話す私はバカなのかもしれないでも私の話を聞いてくれ
て理解してくれるのは空だけだと思った。

ただ空はあまり自分の事を話さなかった。なんでかわからないけど
聞いちゃいけないような気がして聞けなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1911d/>

Memory

2010年10月21日01時13分発行